

1. レバローン/CL0 投資に関するモニタリングについて

- 足元の経済・市場環境を見れば、通商問題や欧州情勢の先行きなど、不確実性が高まっていると認識している。
- そのような中、欧米における企業債務の積み上がりによるリスクの蓄積や借り手のレバレッジの高まり等への懸念が国際的にも高まっている。本邦金融機関の CL0 投資が国際的にも注目されており、金融庁としては、引き続き、我が国金融システムへのリスクの波及を注視しているところ。
- このため、今事務年度においては、
 - ・ 海外クレジット投融資の実態を精緻に把握し、海外エクスポージャー経由のリスクについて、業態横断的かつ統一的な把握に努めるとともに、
 - ・ レバローン・CL0 投資に関して、審査態勢及びストレステストの状況を含むリスク管理態勢に係る水平的レビューを実施する等、リスクテイクに見合った各行の管理態勢の整備に向けて対話を重ねていきたいと考えている。

2. 販売会社における顧客本位の業務運営に向けた取組状況

- 金融庁では本年 8 月 28 日に「投資信託等の販売会社における顧客本位の業務運営のモニタリング結果について」を公表した。注目すべき点として、銀行において、投資信託の販売額は大幅に減少している一方、販売が市場環境の影響を受けにくく、投資信託よりも手数料が高いということもあり、外貨建一時払い保険の販売額は急激に増加している。
- 外貨建保険は、中長期の為替リスクを内包し、(円ベースで見た場合)元本割れリスクを抱えており、顧客に対し、販売時・販売後の十分な情報提供が欠かせない商品であるが、外貨建保険販売量の増加に伴い、元本割れ等のリスク説明を受けていなかったという苦情が(特に高齢者から)多数発生している。

- 今事務年度の方針として、顧客本位の良質なサービスを提供し、顧客の最善の利益を図っているかについて、金融機関の営業現場における顧客宛提案等の実態や、本部における管理の状況についてモニタリングを行ってまいりたい。
- また、中長期的な課題として、手数料の更なる見える化に加え、運用による資産の増加という顧客の利益を金融機関がより目指していくような手数料体系のあり方（例えばコミッションベースからフィーベースへの移行）についても、議論を進めてまいりたい。

3. 「検査マニュアル廃止後の融資に関する検査・監督の考え方と進め方」

（案）の公表について

- 金融庁では、昨年7月以降、全国銀行協会にもお越しいただいた「融資に関する検査・監督実務についての研究会」にて、業界団体、有識者、公認会計士協会、日本銀行等との間で、融資に関する検査・監督のあり方について議論させていただいた。
- これらを踏まえ、金融庁は、よりの確な将来見通しに基づく引当を可能にする枠組みを含め、融資に関する新しい検査・監督のあり方を整理した「検査マニュアル廃止後の融資に関する検査・監督についての考え方と進め方（案）」を公表し、広く関係者から意見募集を行う予定。
- 金融庁としても、現状の実務を出発点として、より良い実務へと改善することができるよう、サポートして参りたいと考えている。皆様のご意見、お知恵を頂きながら進めていきたいと思う。

（以 上）